

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570700197		
法人名	社会福祉法人黒潮会		
事業所名	グループホーム なごみ	ユニット名	向日葵
所在地	宮崎県串間市大字西方4196-5		
自己評価作成日	平成27年 1月23日	評価結果市町村受理日	平成27年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_nraf_search_list_list=trug&PrefCd=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様やご家族様の思いを把握し、生活スタイルの継続や希望に沿った生活ができるよう、利用者様のペースに合わせて日常生活を支援させて頂いています。
 ・できる限り、利用者様がいつでも外出できるような環境設定をしています。また、日常的な地域資源の活用、地域イベントへの参加を積極的に支援し、地域社会との関係が継続できるよう支援させて頂いています。
 ・日常生活行為において、利用者様の意欲を引き出し、利用者様が主体的に活動できるよう支援させて頂くことで、認知症進行の緩和、身体機能の維持が図れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新築移転し、4年目になる2ユニットのグループホームである。玄関には、花の好きな利用者の意向を尊重し、季節の花が常に生けてある。職員を手厚く配置し、ゆったりとした時間の中で、利用者本位の支援を行っている。玄関をはじめ、施設はどこもなされていない。外出は職員の支援を受け、自由にできるよう配慮されており、利用者のその日の気分や意欲を大切にしたい支援が行われている。利用者のきめ細やかな情報収集や職員間の共有に努め、食事・排せつ・入浴等の細部のケアに至るまで、丁寧な支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にした、事業所独自の理念を作成しており、事業所内に掲示してある。また、毎月ミーティングや会議の場で理念に沿った支援が行えているか確認している。	事業の目標に沿った3つの理念を、玄関、事務所内の3か所に掲示している。月2回のホーム内のミーティングなどにおいて、理念を職員間で共有し、利用者の支援につなげている。	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、現状にあった理念を検討することを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所が自治会に加入しており、地区清掃等の活動を利用者様と共に行っている。地区の集会開催時にも参加している。	自治会に加入し、総会や清掃、地区行事の花見などに利用者と一緒に参加している。また、近所の方に野菜や花をもらうなど、地域と日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、自治体の会合はもちろんのこと、家族会の集まりの中でも情報の提供を行い、研修などにも取り組んでいる。また、電話や来所時に相談を受けた際には、その都度対応している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。行政、地域住民代表、家族代表が集まり、運営状況の報告、情報・意見交換を行っている。	2か月に1回、同法人の他事業所内で、合同で開催している。行政、地域包括支援センター、民生委員、家族会代表等の出席で、ホームの活動や利用者の状況報告、意見交換を活発に行い、サービス向上に生かしている。	メンバーに、利用者や近隣住民へ参加を依頼し、更なる情報・意見交換等の場となることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場だけではなく、訪問を行ったり、来訪されることもあり、その都度情報の提供は行っており、協力関係はできている。	運営推進会議のメンバーとして、毎回出席してもらっている。入・退居者や待機者報告を3か月に1回、事故報告等もその都度行っている。また、市担当者の来訪もあり、協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修を通して職員で内容を周知し、実践している。現在、夜間帯に玄関を施錠するのみで、センサー等、行動を制限するような身体拘束はしておらず、職員も理解し、実践できている(言葉による行動制限もしていない)。	法人で実施した研修をホームに持ち帰り、職員に内容を周知し、実践している。夜間帯に玄関のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修を通して、職員で内容を周知し、実践できている。			

宮崎県串間市 グループホームなごみ(向日葵ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して、全体で内容の周知に努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約は個別で行い、十分な説明ができるよう体制を整えている。改定等においては、個別での相談時と家族会の集まりの際に説明の場を設けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時はもちろんのこと、日常の中でも意見を言いやすい環境を整え、要望に添った運営を行っている。また、法人全体で苦情処理体制を整備し、サービス向上委員会の中で、内容の検討と公表も行っている。また、運営推進会議の中でも情報の提供は行っている。		家族の来訪時に、管理者や職員が声掛けを行い、意見や要望を表しやすい環境作りに努めている。運営推進会議の中でも情報の提供を行い、毎月、家族宛に文書の発送や電話連絡等をし、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内の会議に、法人本部長、管理者共に参加し、職員の意見を聞く場を設けている。また、職員へ援助の方向性を示し、実践している。		ホーム内の会議に、法人本部長や管理者が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、出された意見等を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度、目標管理制度を実践しており、職員の仕事ぶりに合わせた評価を行い、意欲の向上に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度、目標管理制度を基にした個別での指導と、法人内研修、事業所内研修を通し全体への指導を行い、スキルアップに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県認知症高齢者グループホーム連絡協議会、串間市の介護支援専門員連絡協議会に参加し、同業者の交流と意見交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に、必ず利用者様、ご家族と面談を行い、意向を聞き取っている。また、1回の面談だけではなく、状況に応じて電話や来訪時に話をする機会を増やしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャー等から情報を得た上で、入所申し込みの時点で、ご家族より要望等は聞き取り、その後の面談等に繋げ、関係構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの段階で、利用者様、ご家族の意向を確認し、ケアマネージャー、他事業所等とも連絡体制を取りながら、必要なサービスが提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活行為、地域への社会参加等、利用者様主体で、職員が一部お手伝いをさせて頂くような形で、共に生活している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には、職員が積極的に声を掛け、意向を聞き取ると共に、来訪しやすい環境作りに努めている。また、毎月のお便りと必要に応じて電話連絡を行い、情報の共有を図っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の情報を基に、なじみの場所・人との関係構築が継続できる支援を行っている(入居者一人あたり平均月20回)。また、来訪者においても関係性の把握と声かけを行い、来訪しやすい環境作りも行っている(来訪者数平均月115名)。	利用者のなじみの人や場所の情報収集に努めている。手厚い人員配置を行い、「行きたい時間に、行きたい場所」の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格や思考を把握し、人間関係の構築に努めている。また、職員の仲介も必要に応じて行い、孤立しないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、他事業所のサービスの情報提供を行い、退所後にも電話連絡や各関係機関とも連携を図り、関係性の継続に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の段階、入所後の日常の中での希望・意向の確認を行い、その情報を基にしたケアプランに沿って個別の支援を行っている。把握が困難な場合でも、ケアカンファレンスの中で意見を出し合い、できる限り利用者様の意に添えるサービス提供に努めている。	入居時に、希望や意向の確認を行っている。入居後も利用者が望む暮らしができるように、日々のかかわりの中で、本人の言葉や表情に細心の注意を払いながら、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、なじみの暮らし方、生活環境等、アセスメントシートやケアプランに反映し、それを基に支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で得た情報は、アセスメントシート、ケアチェック表に記入し、それを基にケアプランを作成し、支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンス、モニタリングにて情報の共有を行っている。ケアプランにおいては、利用者様、ご家族の状況により、その都度内容の検討を行い、支援している。	本人に状態の変化がある場合には、その都度、気づいたことを記録し、職員間で情報を共有し、ケアのあり方について検討している。本人がよりよく暮らすために、家族や職員の意見を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施以外でも、利用者様の状態はその都度ケース記録に残している。また、記録を基に、アセスメント、カンファレンス、モニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせて勤務時間や職員配置の調整を行い、柔軟に対応できるような体制作りを努めている。			

宮崎県串間市 グループホームなごみ(向日葵ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴を把握し、昔からのなじみの店、美容室、温泉等、継続して利用できるよう支援している。また、利用に際して、地域資源に向けた説明も行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	申し込みの際に、かかりつけ医を把握し、継続して利用ができるよう、医療機関とも連携を図り支援している。利用者様、ご家族の希望や心身の状態によっては、主治医をまじえての相談のもと、必要に応じてかかりつけ医の変更も行っている。	申し込みの際に、かかりつけ医の希望を確認する。本人・家族の意向を尊重し、柔軟に対応している。必要に応じては、かかりつけ医変更などの相談も支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護職員を1名配置しており、介護職員と共に、日常的な支援やカンファレンス・会議の中で情報の共有と連携を図り、適切な受診や看護が支援できるように努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、主治医とご家族との話し合いの場に同席させて頂き、情報提供を行っている。また、早期退院できるよう、話し合いの場にて、主治医への相談や入院期間も電話や面会時に情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化、看取りについての指針の説明を行っている。また、入所中、状態に変化が見られた際にも、その都度説明と相談を行っている。また、事業所での対応が困難になった際には、ご家族へ相談のもと、医療機関、他事業所と連携を図り、利用者様に合ったサービスの提供に努めている。	入居時に、「重度化した場合や看取り」の指針の説明を行い、家族から同意書を得ている。ホーム内で看取りの研修を実施し、皆さんに努めている。入居中に状態の変化があった場合にも、その都度、相談と説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修の中で訓練を行っている。また、緊急時のマニュアルに沿い、緊急連絡網の整備やオンコール体制にて、管理者、看護職員へいつでも連絡が取れる体制を整えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の会議の際の訓練、他事業所が開催する避難訓練にも参加している。地域への啓発活動は行っていない。物品の備蓄に関しては十分ではないので、今後揃えていく必要がある。	年1回は救命救急を行っている。毎月行う運営会議の後に、災害時の避難経路や通報の仕方、消火機器の使い方の確認を行っている。利用者の認知症状の悪化を懸念し、ベルは鳴らさず、利用者の参加もない。	確実な避難誘導ができるように、利用者を交え、地域住民の参加、協力を得ながら、定期的な避難訓練の実施を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や守秘義務においては、研修の場で学んでいる。日常生活においても、利用者様の意向やその時の要望に合わせた支援ができ、言葉掛けにおいてもアセスメントを基に、個人に合わせた対応ができています。	法人全体で、人格の尊重や守秘義務の研修に取り組み、ホーム内で周知・実践している。職員も環境の一つであることを認識し、利用者がテレビ視聴時には、テレビの後ろ側を歩くなど、きめ細やかに対応はできている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活全てにおいて、利用者様が自分で選択できる環境作りに努めている。また、施設の特徴でもあるなじみの関係作りに努め、希望を言いやすい環境作りと、思いを把握できる環境を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、利用者様の望まれるペースで柔軟な支援ができています。ルール設定は最小限にしているが、利用者様の状態によっては、職員側から行動を促すこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室の利用はもちろんのこと、衣服においても利用者様に選んで頂けるよう支援している。また、衣服の購入等も個別での支援ができています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、メニュー設定、食材の買い出し、調理、食事、片付けの全てにおいて、利用者様と共に行っている(心身の状態により、援助方法を変えて支援している)。また、食に楽しみを持って頂けるよう、好物の提供、出前、外食等も個別に支援ができています。	利用者の意向を確認しながら、その日に食べたい物をその日に決め、メニューが決まると買物に行き、利用者と一緒に調理している。職員もテーブルを囲み、調味料なども一人ひとりの好みに合わせ用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況は毎食記録に残し、把握している。入所時になじみのご飯、汁茶碗、湯飲みは持ってきて頂き、個人に合わせた食事の提供を行っている。また、摂取量が少ない際には、食事だけではなく、献立を個別に変更したり、嗜好品の提供を行い、栄養状態の安定に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	アセスメントを基に、自宅でされていた口腔ケアの方法で支援している。自力での口腔ケアが困難な場合には、声かけを行い、促したり、必要に応じて介助を行っている。			

宮崎県串間市 グループホームなごみ(向日葵ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツにおいては、医師からの指示がない限り使用していない。排泄は利用者のパターンで支援しているが、必要に応じて声かけもしている。また、排泄用具においても、個別に合わせた物を使用している。	基本的にオムツは使用していない。本人の排せつのサイン(言葉や表情、動き)を把握したり、排せつチェックシートを活用し、タイミングをつかんでいる。身体状況に応じて、トイレのスペースも3タイプあり、一人ひとりの状態に応じた排せつ支援がなされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為に、食物繊維を多く含む食材を食事や茶話会時に提供したり、嗜好に応じて乳製品の提供も行っている。また、運動も大事な要素である為、日常生活の中で運動も促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日や時間の設定はしておらず、自宅での生活習慣やその日の要望に合わせた時間で支援している。また、必要に応じて対応する職員の変更も行っている(同性、異性等)。	入居時に、時間帯や回数などの本人の意向を確認している。毎日、交代で入浴担当職員を決めている。担当になった職員が、本人のその日の入浴の意向を確認し、個々に沿った支援がなされている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝の時間は、個人に合わせた支援をしている。また、夜間安眠して頂けるよう、日中は活動の機会を多く持てるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにて、内服薬は説明書を綴っているファイルを確認しながらセットし、確認作業もセット時と服薬援助前に行っている。また、誤薬防止の為に、服薬援助時には職員2名にて確認を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の情報をもとに、日常生活の中での役割や趣味、嗜好、なじみの場所等への支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態の重度・軽度にかかわらず、日常の用事の為の外出だけではなく、利用者様のなじみの場所・希望に合わせた場所への支援はできている(前年度外出総数4708回、一人平均262回)。季節毎の地域イベント、広報誌、チラシ、TVを利用した話題提供も行い、意欲を引き出せるよう努めている。	職員は、地域のイベントや広報誌等の情報発信に努め、利用者がその日に行きたい所に、その日に外出できるよう支援している。市街地や鶴戸神宮等へも出掛け、利用者の意向を大切にしたい外出支援に努めている。		

宮崎県串間市 グループホームなごみ(向日葵ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	向日葵ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の段階で、利用者様が日常的に金銭を使用できるようご家族へ説明し、預かり金の管理を行っている。その中から必要時に利用者様へ金銭を渡し、自由に使えるよう支援している。また、使用した内容は出納帳にその都度記載し、ご家族来所時に説明を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは自由にできるように支援している。また、情報を基に手紙等を習慣としていた方においては、いつでも取り組めるような環境を整えている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、ソファ、ベンチ、和室を置き、くつろげる環境を設定している。また、時間帯で電灯の使い分けや調理行為等を利用者様と共に目の前で行うことで、音や臭い等の五感を刺激できるよう支援している。なお、施設内の設えは利用者様の意向をふまえている。	玄関には生花が飾られ、共用空間には、利用者の体格に合わせていろいろな種類のソファや椅子が置いてある。居間はキッチンに続き、調理の香りや音がし、生活感がある。時間帯に応じてレースのカーテン等で日差しを調整し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに、ソファ、ベンチ、和室、また、ユニット畳を設置しており、利用者様に合わせて、一人で過ごせる空間、なじみの方と過ごせる空間等の環境の設定を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるよう、入所時にご家族との協議の下、なじみの食器、小物、家具等を利用者様に合わせて持ち込んで頂き、落ちつける環境の設定を行っている。なお、施設内の設えは利用者様の意向をふまえている。	入居時に本人・家族と相談し、使い慣れた箸や食器等を持ってきてもらっている。また、自宅から仏壇を持って来られた利用者もいる。寝具は、利用者の意向や身体状況に合わせて布団やベッドを利用し、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内においては、シルバーカーや車椅子でも生活ができるよう設計し、屋外に出る際にも支障がないよう工夫している。また、各ユニットに作りの異なる3つのトイレがあり、身体状況に合わせて自立した生活ができるよう環境設定している。			